

(仮称)

自然ふれあいの森

ニュースレター 第01号

平成14年7月27日発行 発行:「(仮称)自然ふれあいの森」管理運営準備委員会

管理運営準備委員会報告

第1回/平成14年3月16日(土) ワークショップ
第2回/平成14年4月27日(土) ワークショップ
第3回/平成14年5月25日(土) ワークショップ
第4回/平成14年6月29日(土) イベント

「(仮称)自然ふれあいの森」の管理運営を市民参画型で行うことを目的に組織された「(仮称)自然ふれあいの森管理運営準備委員会」には公募で選ばれた30名の市民をはじめ市職員や学識経験者、専門家、学生ボランティアなど総勢60名弱のメンバーが参加しています。そして、この委員会では今年の3月から市民参画のシステム構築を最終目標としたイベント主導型のワークショップが定期的に行われています。第1回管理運営準備委員会では「(仮



称)自然ふれあいの森」の計画内容や整備スケジュール、本委員会の目的、などが一通り説明された後、市民委員にとって最も関心の高い計画内容について熱のこもった意見交換が行われました。

第2回管理運営準備委員会では「森の中であなたがやってみたいこと」をテーマに4チームに分かれて活発な議論が行われました。各チームからは自然観察会に代表されるような「森を知る」レベルのものからクラブ教室や森の中での遊び、バーベキューパーティといった「森を楽しむ」活動的なレベルのものまで幅広い

内容のプログラムが提案されました。第3回管理運営準備委員会では、前回のテーマをさらに現実的に発展させた「(仮称)自然ふれ



あいの森でイベントとしてやってみたいこと」をテーマに話し合いが行われました。前回同様多くの意見が出されましたが、話し合いの結果、『(仮称)自然ふれあいの森』をもっとよく知ることをテーマにした「観察」タイプのイベントを行うことが決定しました。また、後日行われた有志によるイベント準備分科会でこの「観察」タイプのイベントを現場をより深く知るための探検的なものにする事が確認されました。

管理運営準備委員会委員 忽那 裕樹

「森の学校」 第一回(全四回) 自然ふれあいの森

森と人との新しい関わり方を求めて

ふれあいの森では、森と人との新しい関わりを求めていく中で、四季折々の里山の風景を育んでいく活動拠点となる「森の学校」をコンセプトに森づくりを展開しています。今、なぜ森との新しい関わり方が必要なのでしょう。

日本の風景を代表する里山は、かつては薪炭林等の利用が図られ、水田をはじめとする農風景の後背地として重要な位置を占めていました。里山の風景は、自然とその恵みを得ようとする人の営みとの相互依存関係が生みだした姿であるといえます。人が関わってこそ多様性のある里山という環境が形づくられていくのです。しかし、人々は徐々に里山から去り始

め、その風景も消失しつつあります。このような中、昔の里山を復元する活動が効果を奏しているところもありますが、産業構造が転換した現在では維持することも難しい側面があります。これに対し、求められるのは、日常生活の中で多くの人々に、あらためて森に関わろうとする気持ちが芽生えることであり、それがなければ、自然との相互依存関係を取り戻すことはできないでしょう。人と自然の新しい関係の中で新しい風景を生みだし共有していく姿勢が必要となるのです。これらは多分「楽しみながら学ぶ」ことから始まり、それを試みる場、語り合う場が「森の学校」なのです。次回より、新しい関わり方のユニークな事例等も紹介したいと思います。



「現地を知ろう」観察・探索会 報告

第4回管理運営準備委員会では6月29日（土）9：30から「現地を知ろう」ということで班ごとに別れ西コース、東コースを探索しました。結局現地を歩いていると楽しくてどの班も両コースとも回って満足そうな笑顔で帰ってきました。



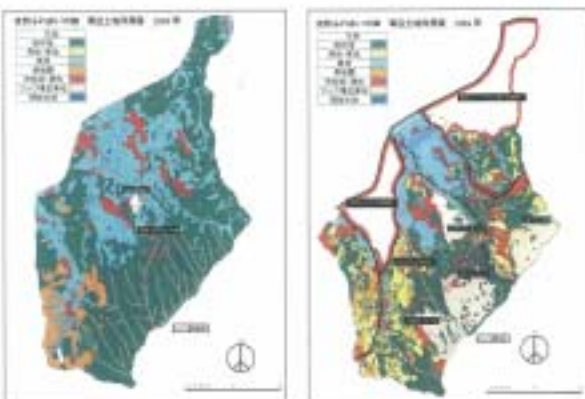
東コース（法道寺川沿い）を歩いていると木の实がなっていたり、きれいな花が咲いていたりと自然を楽しむ一方で、同じ草や木でも他の草木を枯らしてしまうものがあることや、ネザサがどれだけ固くて危険かを知ったりと森の中に入って初めて知ることがたくさんありました。地図で見ているよりも随分大きな森の中で何をすべきか？何が出来るか？を考えながら歩いているとあっという間に時間が経ちました。途中アオダイショウの抜け殻があったのには驚きました。



西コース（第2豊田川沿い）の川では今年も蜚が見れたそうです。毎年ここで蜚を見るためにももっと水をきれいにできればと思いました。歩きながら「次はここで〇〇がしたい！」等の声が聞こえてきます。「めずらしいトンボを見つけ」「鳥の声に耳を澄まし」、「はっぱに触れ」、「花の匂いを嗅ぎ」、「木の实を食べ」と五感で森を感じた一日でした。



みんなの掲示板



ちょっとお勉強のコーナー

「昭和30年代の南部丘陵地域と現在との違いについて」

昭和30年代では、南部の市境界部の大起伏丘陵地から北に向かって小起伏丘陵地が帯状に伸びており、その上部は豊かな森林に覆われている。丘陵地に挟まれた谷底平野には水田が分布しており、まとまりのある豊かな田園風景が展開していたことが伺える。一方、南部の市境界部には

ゴルフ場、北部の帯状に伸びる小起伏丘陵地には東北ニュータウンが開発され、現在では森林と農地は東西に帯状に薄く分布する形状へと変化している。また、地域全体で土地利用の細分化も発生している。自然ふれあいの森はこの貴重な帯状の地域に位置している。

＜夏の昆虫観察会＞

鉢ヶ峯の里山や水辺にどんな昆虫たちが生息しているのか、みんなで観察してみませんか。もしかしたらカブトムシやクワガタムシに出会えるかも。

日 時／8月4日（日） 雨天中止

集 合／どんぐり広場（堺市公園緑地内）

又は鉢ヶ峯バス停前に午後3時に集合

参加費用／大人300円、小学生100円（保険、資料代など）

※持ち物など、詳しいお問い合せは、下記まで

問い合せ／鉢ヶ峯の自然を守る会 夏の昆虫観察会係

山本浩平（TEL 072-259-3202）

＜身近なみどりの写真展＞

夏の恒例の写真展。ここ数回からは里山の動植物などの写真だけでなく植物園や里山の草木染めも展示しています。是非お立ち寄りください。出展を希望される方は問い合わせ先までご連絡ください。

展示期間／8月18日（日）～8月24日（土）

初日は午前10時から設営、最終日は午後4時から撤収します。

8月19日（月）は休館

場 所／堺市鉢ヶ峯図書館ロビー（2階）

問い合せ／酒井和子（TEL/FAX 072-291-5561）

管理運営準備委員会 ワークショップチーム紹介



どんぐりチーム

小出、児島、中野、逢田、坂東、夏原、福田(環)、森、大嶋、大植、石浦、山田

ワークショップでは、ビオトープを作りたいとの意見もでた、若い力がみんなを引っ張るどんぐりチーム。



みのむしチーム

笠原、日下、塚原、福田(哲)、増原、森下、藤野、久下、田村、濱野、平峰、松井、忽那

お昼近くにワークショップを行うためか、つつい「食」の話題が多くなってしまいがちな、愉快的みのむしチーム。



きのこチーム

大谷、神田、北井、衣笠、都志、森本、湯舟、嶋田、伊藤、岡田、谷崎、清水、近藤、長濱

先日の観察・探索会でも和気あいあいと、道なき道を行ったり、崖を登ったりと冒険心の強いきのこチーム。



はっぱチーム

相川、小原、酒井、原田、松弘、三瀬、瀧川、岩澤、樫木、百済、雲川、川浪、瀨川、北風、石垣、永田

自然や森に詳しいメンバーがいるので、自然観察はおまかせの、歩く生き字引なはっぱチーム。



座長のコラム

有機肥料や燃料の源として生産活動や農村生活の必然性の中で持続されてきた里山は、その必然性が消滅したことにより全国至る所で存亡の危機に晒されている。堺市の南部丘陵もその典型的な地域の一つである。自然ふれあいの森は、この南部丘陵の中で東西に帯状にわずかに残されている里山の一部に位置している。「森の学校」をテーマに、自然環境の保全を基本として、里山と人との新しい関わり方を考えるきっかけの場づくりを目標としてい

る。里山の生態系に配慮したエコロジカル・デザインと順応型管理（アダプティブマネージメント：計画→実行→モニタリング→評価→計画の見直しを一連として行う管理形態）の考え方によって、市民と共にゆくりと保全整備を進めようとしている。また、この森の管理運営は市民が主体となることも目指されている。

この3月からは、公衆市民やコンサルタントスタッフ、堺市や大阪府立大学の緑地環境計画工学研究室・緑地環境保全学研究室との連携に

よって月一回のワークショップがスタートした所である。

ワークショップの構成員は、技術や知識、経験や知恵、体力など自らが持っている何らかの資源を出し合いながら、「創造的発想」と「協働の姿勢」を持って、楽しみながら活発に活動や論議を展開し、全員で「森の学校」の理念を実現していくことが期待される。

座長プロフィール>>>増田昇（ますだのぼる）/1952年大阪の泉州に生まれる。77年に大阪府立大学の修士課程を修了。77-85年、市浦都市開発建築コンサルタントに勤務。85年に大阪府立大学の農学部に戻り助手等を経て、97年に教授となる。専門は、緑地計画分野で都市計画やランドスケープデザインにも携わっている。現在、日本造園学会の常務理事、大阪府等の景観審議会や都市計画審議会、環境審議会委員を勤める他、箕面・山麓保全検討委員会等の座長も務める。著書には「住環境の計画3・集住体を設計する（彰国社）」、「環境首都関西のデザイン（学芸出版社）」等がある。

chairman's column

問合せ先

「(仮称)自然ふれあいの森」
管理運営準備委員会 事務局

堺市 公園整備課 | 株式会社 緑景
TEL:072-228-8174 | TEL:06-6763-7167
FAX:072-228-1336 | FAX:06-6765-5599

ホームページアドレス

<http://sakaisatoyama.cool.ne.jp/>

アクセス方法

